宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画

～将来あるべき学校の姿とその実現に向けた取り組みについて～

宇部市教育委員会
教育総務課

はじめる前に・・・

◆小中一貫教育

◆施設一体型小中一貫教育

◆義務教育学校　　とは

◆小中一貫教育とは

・連続する小中学校で「めざす子ども像」（教育目標）を共有して、９年間を通じた系統性・連続性のある教育活動を行うもの。

・令和２年度(2020年度)からすべての中学校区で導入。

【メリット】

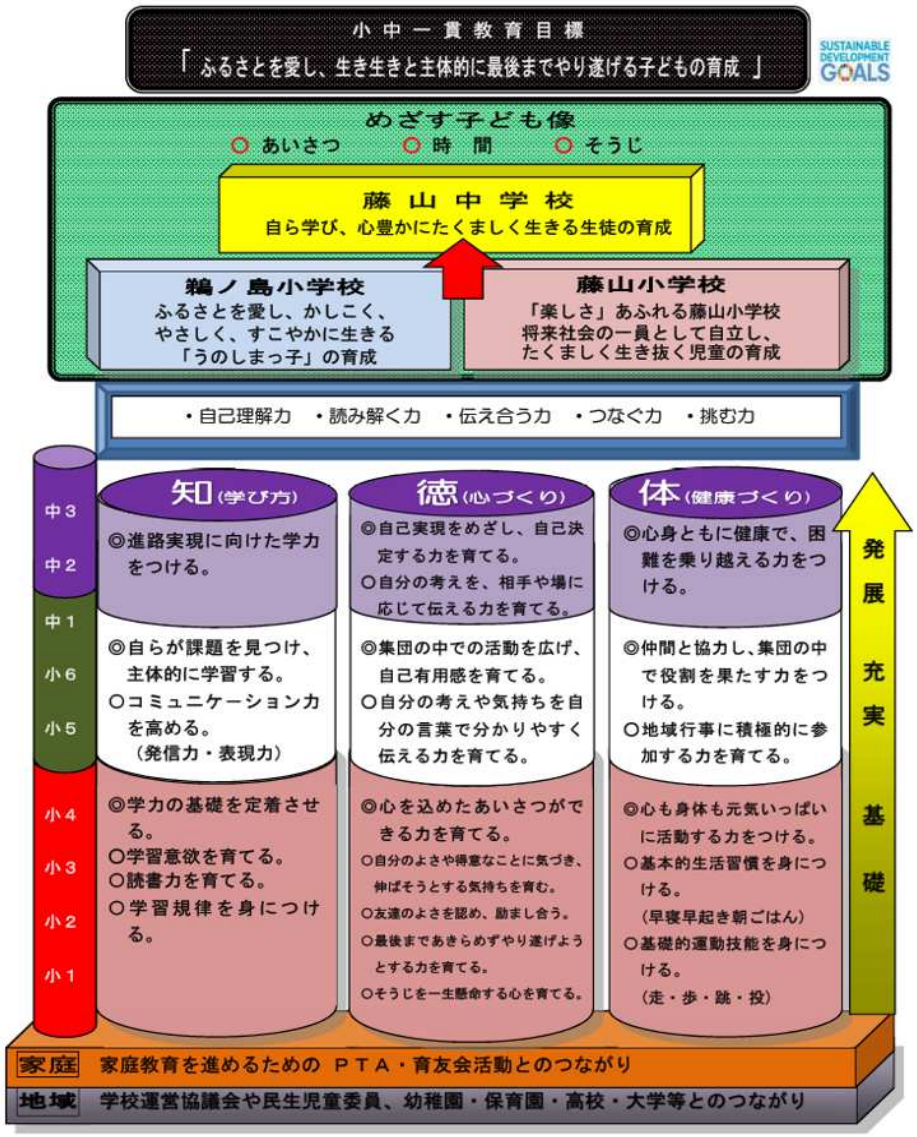
- 中一ギャップの緩和や解消
- 確かな学力の定着
- 異学年交流などによる精神的な発達

【具体的な取組】

- 「めざす子ども像」を共有し、同じベクトルで児童生徒を育てる
- ９年間を見通したカリキュラムを実施
- 小学校５・６年生で教科担任制
- 小学生と中学生の交流授業
- 小中教員による相互の乗り入れ授業など

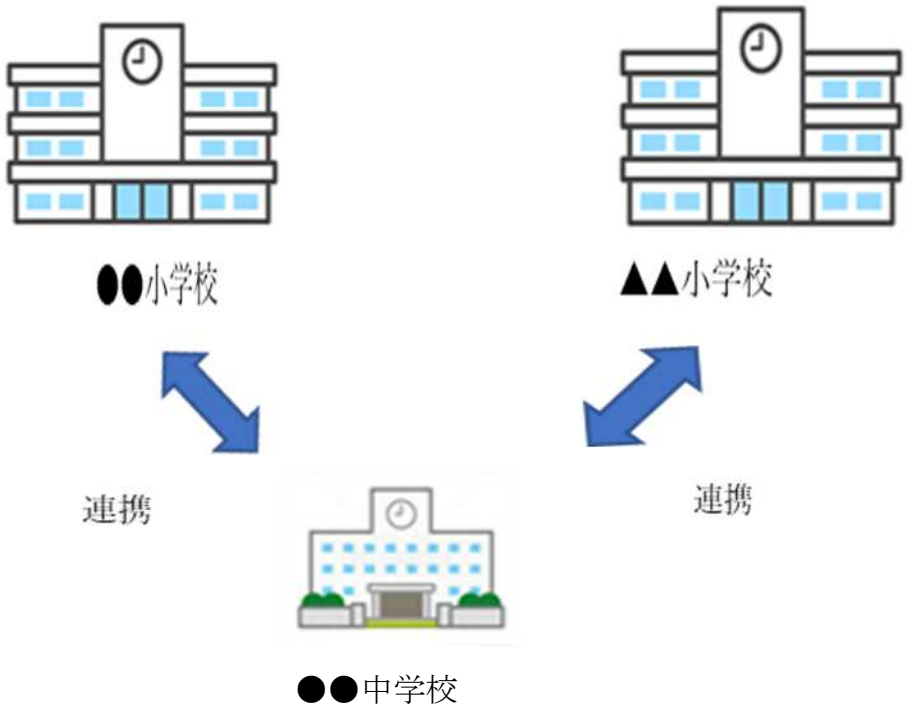
【参考】

藤山中学校区小中一貫教育構想図



◆施設の形態

従来の小中一貫教育
（施設隣接型・分離型）



施設一体型小中一貫校

同一敷地内に、小学校と中学校を設置する施設整備の形態

◆学校の形態

	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
校長	小学校・中学校に１人ずつ	１人
教職員組織	小学校・中学校に１つずつ	１つ
学年	小学校６年 中学校３年	１年生から９年生

計画の説明

宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画

◆計画期間

令和６年度(2024年度)から令和１５年度(2033年度)までの１０年間

計画策定５年後には必要に応じて見直す。

◆学校のあるべき姿

　児童生徒が、多様な考え方に触れ、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける集団規模と、安心・安全な教育環境のもとで、地域と連携を図りながら、義務教育９年間を見通したつながりのある教育を提供することにより、児童生徒の確かな学び（健やかな成長）を保障できる学校

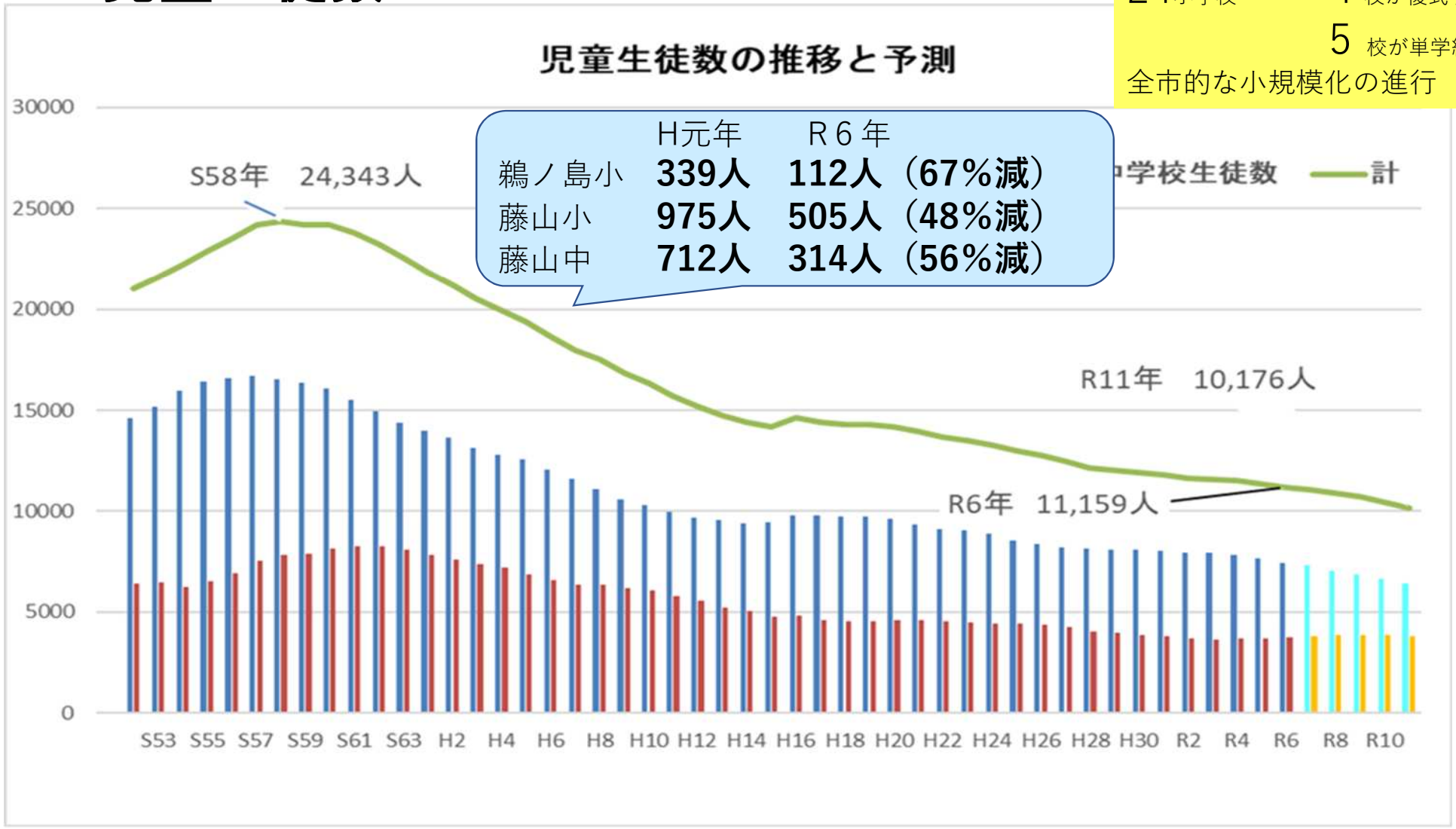
【理想形】

　児童生徒の社会性を育むことができる集団規模を有し、校区の中心に位置する同一敷地内に小中学校がある義務教育学校

宇部市の現状と課題

1　児童生徒数

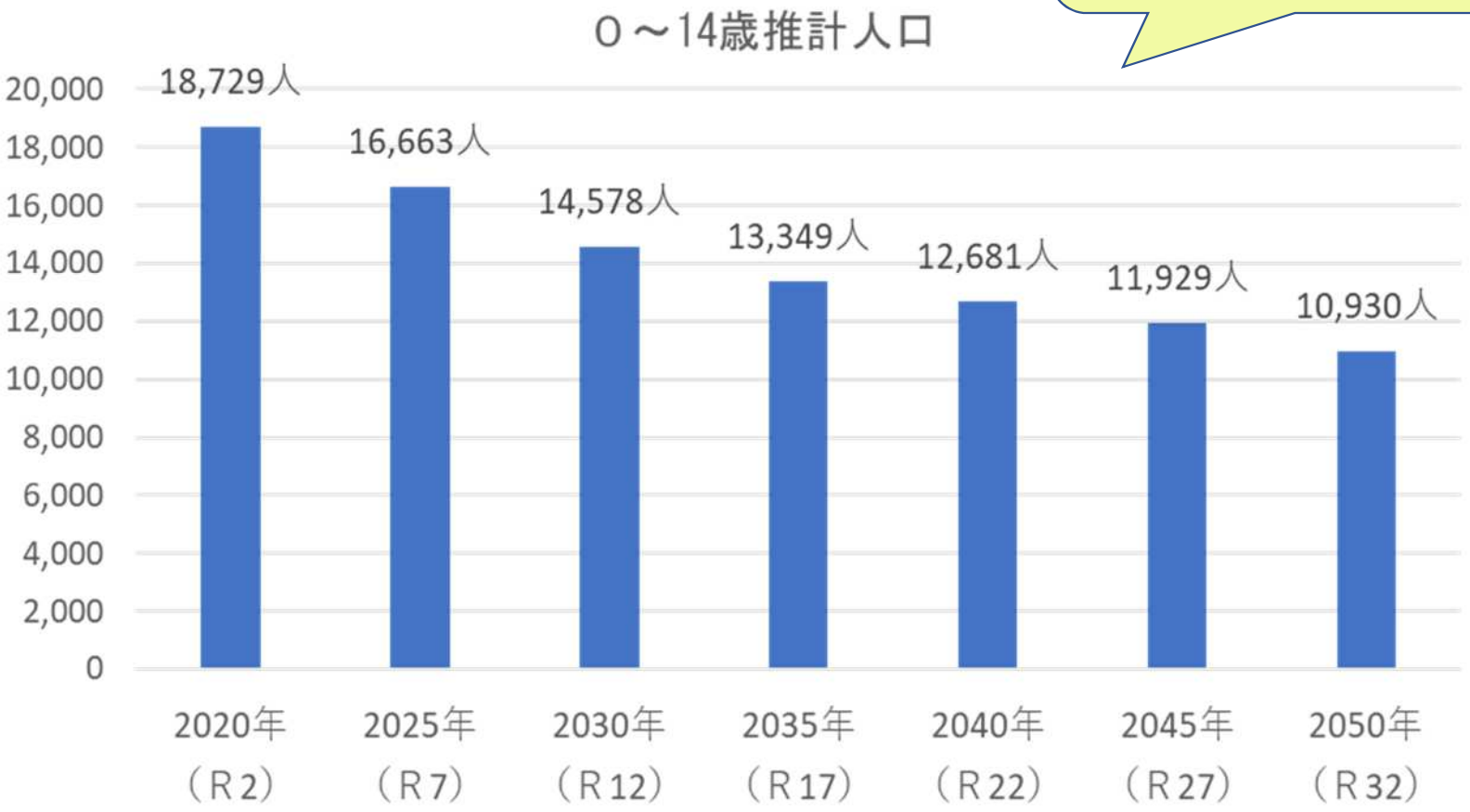
学校規模（令和６年５月１日現在）
24小学校　　4 校が複式学級
5 校が単学級
全市的な小規模化の進行



	H元年	R６年
鵜ノ島小	**339人**	**112人（67%減）**
藤山小	**975人**	**505人（48%減）**
藤山中	**712人**	**314人（56%減）**

本市の将来推計人口

30年間で７，７９９人
４２％減少



出典：「日本の地域別将来推計人口（令和５年(2023)年１２月公表）」（国立社会保障・人口問題研究所）

2　小中一貫教育

■小中一貫教育とは

連続する小中学校で**「めざす子ども像」**を共有して、９年間を通じた系統性

・連続性のある教育活動を行うもの

⇒**「中一ギャップの緩和や解消」「確かな学力の定着」**などの実現を目指す

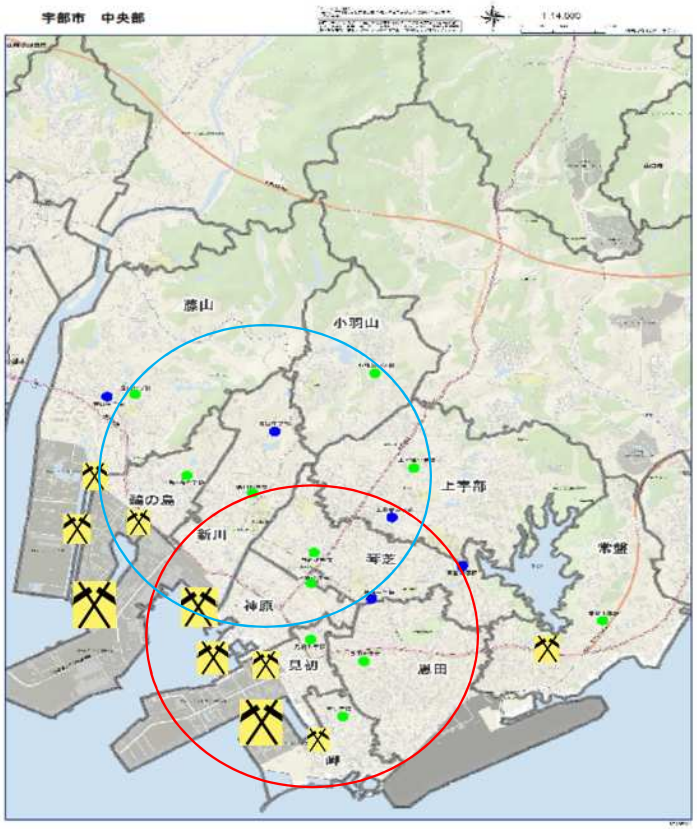
令和２年度からすべての中学校区で導入

問題点

進学先が分かれる小学校では、どちらか一方の中学校と連携することとなるため、連携先でない中学校に進学する児童については、系統性・連続性のある教育活動が難しい

3　学校選択制

通学区域の弾力化を図るため、学区の一部の自治会に居住する児童生徒が、住所地の属する学区の学校（就学校）に加えて、隣接学区の学校を選択できる制度



平成２０年度から通学区域に偏りが生じている学校で導入

問題点

利用者の増加により本来の就学校で大幅に入学者が減少している学校がある

4　学校施設

施設（校舎）の建設年度一覧

令和６年４月１日現在

小学校名				経過年数	中学校		
				70年以上	藤山	常盤	
	藤山	神原	鵜ノ島	69年～築60年	桃山	厚南	
恩田	新川	原	万倉	59年～築50年	西岐波	東岐波	
厚南	上宇部	常盤	東岐波	49年～築40年	楠		
厚東	小羽山	西宇部	見初				
			吉部				
川上	船木	琴芝	黒石	39年～築30年	川上	黒石	神原
		小野	二俣瀬	29年～築20年	上宇部		
			西岐波	19年～築10年	厚東川		
			岬	築10年未満			

※体育館、倉庫、クラブハウス等は除く。

◆課題解決に向けた取組の方向性

①小中一貫教育の推進

進学先が分かれる小学校の解消を図る

②望ましい学校規模の確保

一定の集団規模を確保するための基準(適正規模・適正配置基準)を定めて、通学区域の変更や適正配置の検討を進める

③学校施設の整備

学校施設の更新時期を踏まえた、学校の統廃合の検討を進める

◆望ましい学校規模と学校配置の基準

《適正化のための地域区分》

市街地地域：北部地域以外

北部地域　：厚東、二俣瀬、小野、船木、万倉、吉部

■望ましい学校規模の基準

	市街地地域	北部地域
小学校	12学級以上（1学年2学級以上）	6学級以上（1学年1学級以上）
中学校	6学級以上（1学年2学級以上）	3学級以上（1学年1学級以上）

■望ましい学校配置の基準

	通学距離	通学時間
小学校	おおむね４Km以内	おおむね１時間以内
中学校	おおむね６Km以内	おおむね１時間以内

◆配置の適正化に向けた具体的な取組

①小中一貫教育の推進

一つの小学校からは一つの中学校の進学となるよう、中学校の通学区域を優先的に見直し、必要に応じ小学校の通学区域の見直しを行う。

【進学先が分かれる小学校の中学校区域の再編】

	現在の進学先	再編後	対象地区
常盤小	西岐波中・常盤中	西岐波中	常盤全区
琴芝小	上宇部中・常盤中	神原中	琴芝全区 （琴芝１区から1-１０区を除く）
		常盤中	琴芝１区から1-１０区
鵜ノ島小	桃山中・藤山中	藤山中	鵜の島全区

→ 恩田小へ区域変更

■桃山・藤山中通学区域の児童生徒数

鵜ノ島小の約９割の児童
が藤山中に進学
藤山中と小中連携を実施

【令和６年度】

藤山中

	令和6年度			
	1年	2年	3年	計
生徒数	106	98	110	314
学級数	3	3	3	9

桃山中

	令和6年度			
	1年	2年	3年	計
生徒数	116	102	113	331
学級数	3	3	3	9

【令和11年度推計】

藤山中

	令和11年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	91	115	95	301
学級数	3	4	3	10

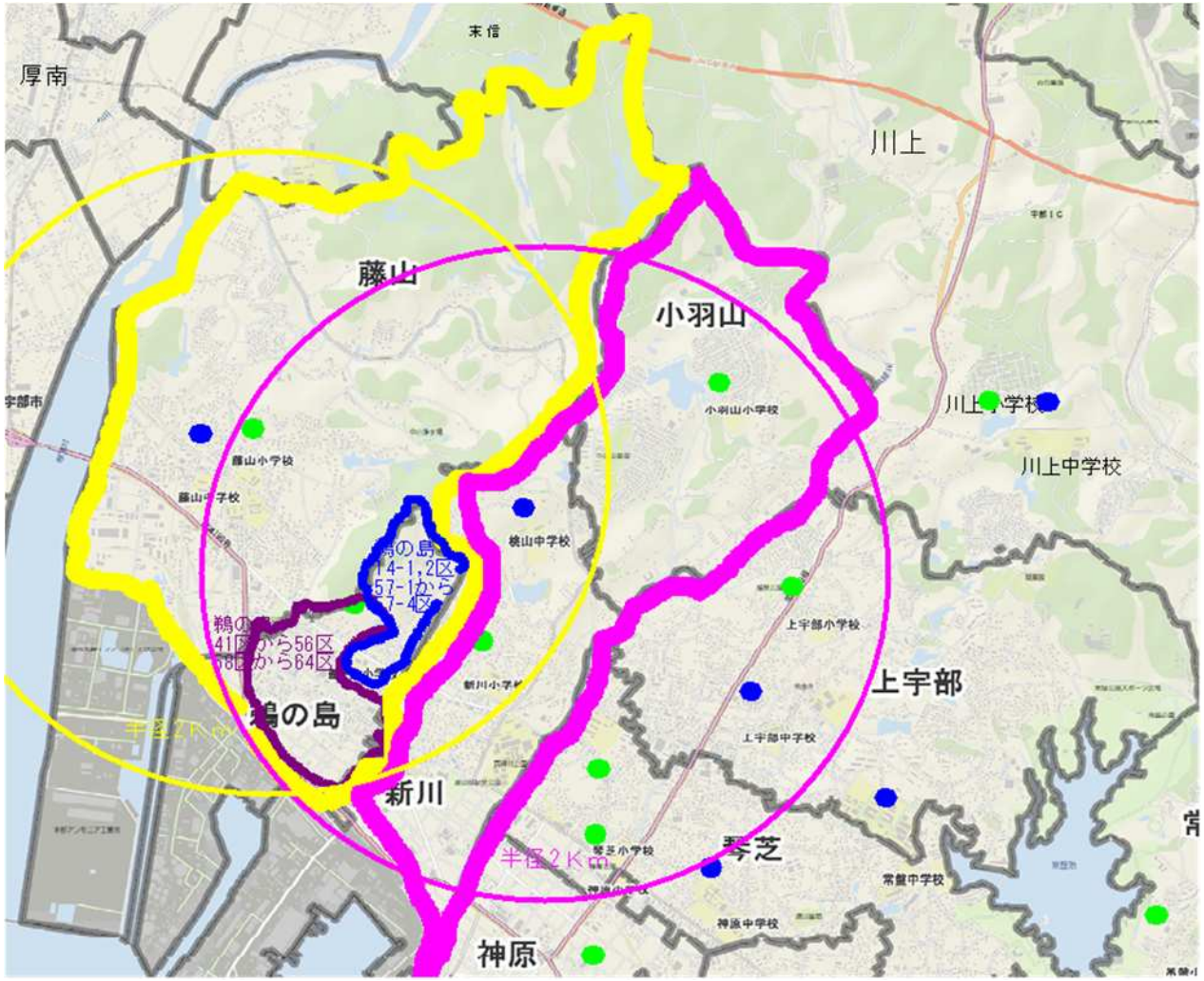
桃山中

	令和11年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	107	100	121	328
学級数	4	3	4	11

【令和６年度の桃山中・藤山中における鵜ノ島小からの進学者数】

桃山中	全校生徒数	うち鵜の島地区生徒数（鵜の島14-1と2，57-1～4区）	藤山中	全校生徒数	うち鵜の島地区生徒数（鵜の島41～56，58～64区）	うち鵜の島地区選択区域生徒数（鵜の島14-1と2，57-1～4区）
	331	6		314	40	10

【新たな桃山・藤山中学校通学区域の概略図】



②望ましい学校規模の確保
検討対象校

《市街地地域の検討対象校》

岬小学校、見初小学校、神原小学校、鵜ノ島小学校

《北部地域の検討対象校》

厚東小学校、二俣瀬小学校、小野小学校、
万倉小学校、吉部小学校

複数の学校が集中し、老朽化が進んでいる学校がある**市街地地域の検討対象校から優先的**に取り組む。

③学校施設の整備

施設一体型小中一貫校または**義務教育学校の設置**を目指す

【市街地地域の適正化の方向性】

■**検討対象校：見初小学校、神原小学校**

３小1中（見初小、神原小、琴芝小、神原中）の施設一体型小中一貫校の設置に合わせ統合を進める

■**検討対象校：鵜ノ島小学校**

２小１中（藤山小、鵜ノ島小、藤山中）の施設一体型小中一貫校の設置に合わせ統合を進める

■**検討対象校：岬小学校**

本計画期間中は、適正化は行わず小規模校のメリットを活かした教育の充実を図る

◆施設一体型小中一貫校のメリットは？

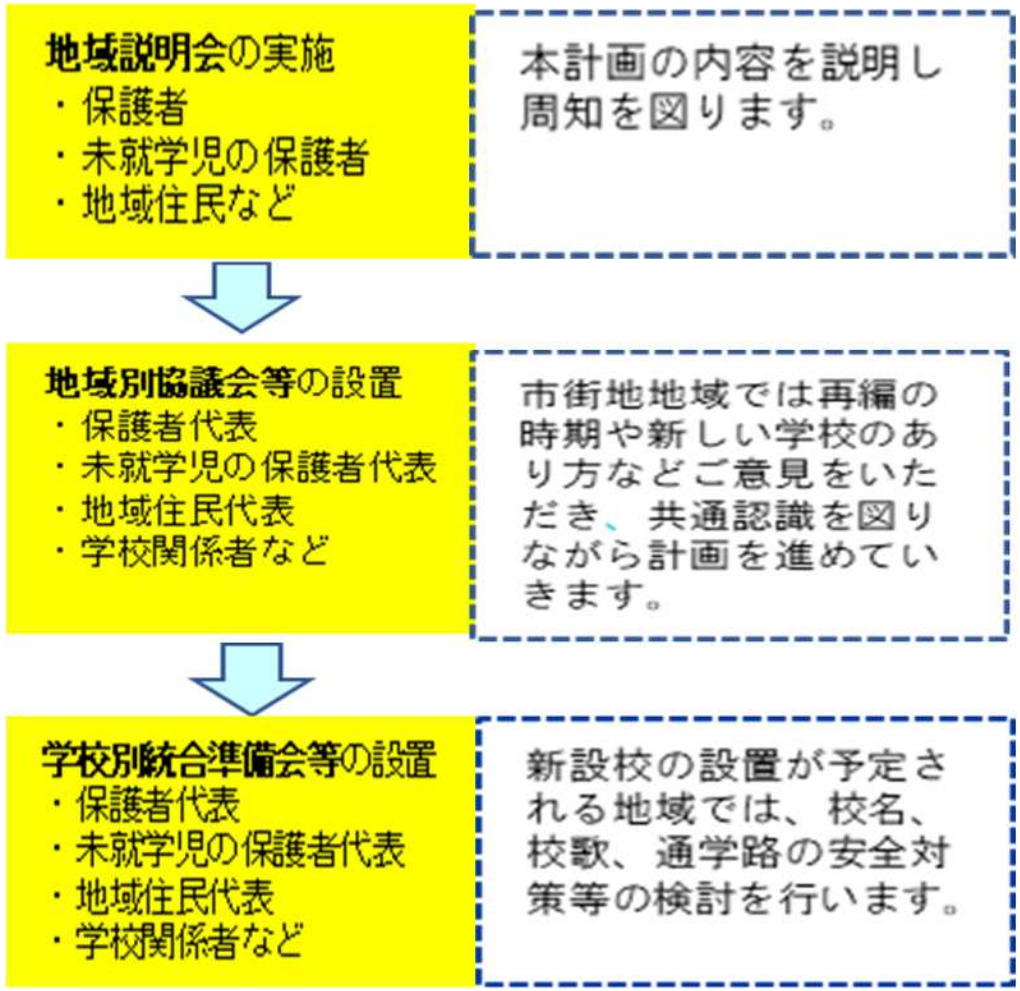
- 移動時間がかからず、交流授業や乗り入れ授業がしやすくなる。
- 異学年交流スペースなどを設けることにより、交流が深まり、上級生が手本となろうとする意識が高まり、下級生は上級生にあこがれる気持ちが向上する。
- 教職員が小中合同の会議や研修を受けやすくなる。
- 集団規模が大きくなることで、様々な専門性を備えた教職員を配置する事ができる。など

教育環境の充実により、児童生徒のコミュニケーション能力や自己肯定感の向上へ

子ども達の確かな学び（健やかな成長）へ

◆計画の進め方と配慮事項

（1）計画の進め方



（2）配慮事項

①児童生徒の不安解消

・事前の交流機会の充実と再編後のきめ細やかなケア
・緩やかな移行に向けた仕組みの検討

②児童生徒の通学支援

・スクールバスや公共交通機関の活用
・学校と保護者や地域の連携

③小規模校の課題への配慮

・中山間地域では、特認校制度の活用や移住定住策の推進に地域や市長部局と連携し取り組む。

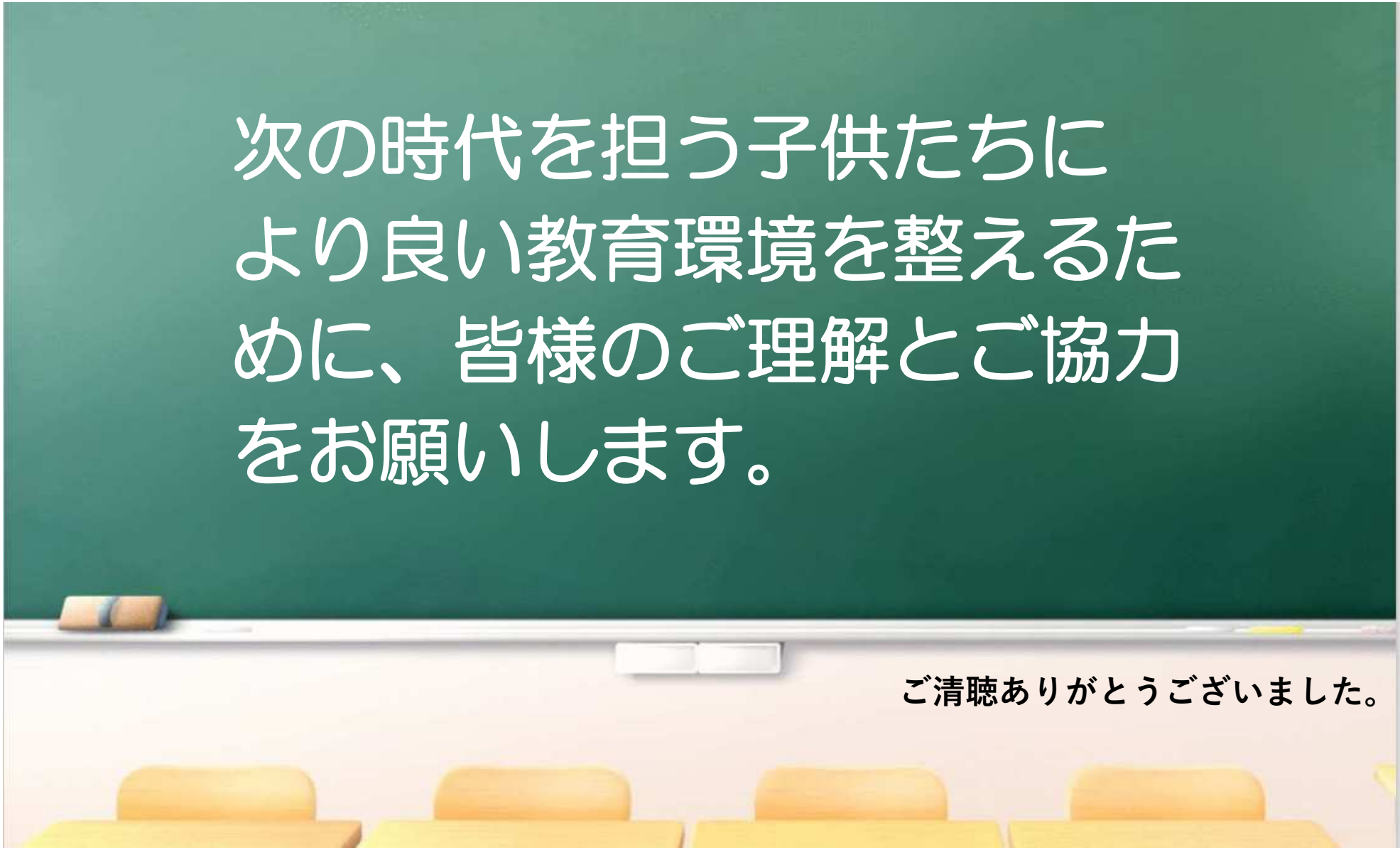
（3）再編スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>R6年度
（1年目）</th><th colspan="2">R7年度
（2年目）
R8年度
（3年目）</th><th>R9年度
（4年目）</th><th>R10年度
（5年目）</th><th>R11年度
（6年目）</th><th>R12年度
（7年目）</th><th>R13年度
（8年目）</th><th>R14年度
（9年目）</th><th>R15年度
（10年目）</th></tr>
<tr><td>藤山中</td><td rowspan="3">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="3">地域協議
再編準備</td><td colspan="6">中学校区の再編（藤山小・巽ノ島小）</td><td rowspan="4">2小1中
小中一貫
校開校</td></tr>
<tr><td>藤山小</td><td>2小1中
小中一貫校
基本設計</td><td>実施設計</td><td colspan="4">施工</td></tr>
<tr><td>巽ノ島小</td><td colspan="6">開校準備委員会設置（開校に向けた検討・準備）</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">藤山中学校へ進学</td></tr>
<tr><td>神原中</td><td rowspan="4">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="3">地域協議
再編準備</td><td colspan="9">中学校区の再編（見初小・神原小・琴芝小）</td></tr>
<tr><td>神原小</td><td colspan="2" rowspan="2">地域協議
（3小1中小中一貫校）</td><td colspan="4" rowspan="2"></td><td>3小1中
小中一貫校
基本設計</td><td>実施設計</td><td>施工
R19年度
開校目途</td></tr>
<tr><td>琴芝小</td><td colspan="5" rowspan="2">開校準備委員会設置
（開校に向けた検討・準備）</td></tr>
<tr><td>見初小</td><td colspan="9">神原小・琴芝小との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実（R19年度新設一貫校へ）</td></tr>
<tr><td>常盤中</td><td rowspan="3">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="2">地域協議
再編準備</td><td colspan="9">中学校区の再編（恩田小・岬小）</td></tr>
<tr><td>恩田小</td><td colspan="9">小学校区の再編（琴芝小の一部編入）</td></tr>
<tr><td>岬小</td><td colspan="11">恩田小との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実</td></tr>
<tr><td>西岐波中</td><td rowspan="2">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="2">地域協議
再編準備</td><td colspan="9">中学校区の再編（西岐波小・常盤小）</td></tr>
<tr><td>常盤小</td><td colspan="9">西岐波中学校に進学</td></tr>
<tr><td>厚東小
二俣瀬小
小野小
吉部小
万倉小</td><td>地域説明</td><td colspan="3">他校との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実、地域や市長部局と連携した児童生徒増加策の推進</td><td colspan="7">R11年度時点で5年先までの児童数を確認し、
児童数の推移が学校全体で12人未満の見込み
となった場合は適正化を推進</td></tr>
</table>

【関連校】

<table>
<tr><td>桃山中</td><td rowspan="2">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="7">中学校区の再編（小羽山小・新川小）</td></tr>
<tr><td>上宇部中</td><td colspan="7">中学校区の再編（上宇部小）</td></tr>
</table>

次の時代を担う子供たちに
より良い教育環境を整えるた
めに、皆様のご理解とご協力
をお願いします。



ご清聴ありがとうございました。